

マーケット概況（2026年2月）

2月の債券相場は、月初に公表された1月日銀金融政策決定会合の主な意見で、今後の継続的な利上げが改めて意識されたことから売りが先行し、10年381回債は前月末比+3.0bpの2.270%で取引を開始した。3日の10年債入札はやや低調な結果となったが、5日の30年債入札を順調に通過したことなどから底堅く推移した。8日に投開票された衆議院選挙で自民党が大勝すると9日には大幅株高債券安となり、10年381回債の利回りは2.290%まで上昇し、5年183回債は発行来最高利回りとなる1.735%まで上昇した。しかし、高市首相の政権基盤が固まったことが過度な財政拡張懸念を後退させるとの見方から上昇に転じ、イールドカーブはブルフラットニングとなった。1月米国CPIが市場予想を下回ったことや米国とイランを巡る地政学リスクの高まりから米国債が買われると上げ幅を拡大し、米国の関税政策を巡る不透明感の高まりも相俟って、24日に10年381回債の利回りは2.055%まで低下した。24日の夕方に高市首相が利上げに難色を示しているとの一部報道があったことや、25日に政府が提示した日銀次期審議委員の人事案で後任候補がリフレ派との見方が広がったことからイールドカーブはスティープ化する場面もあったが、月末特有の長期化の買いにも支えられ、結局、10年381回債は2.110%で今月の取引を終えた。

<短国市場>

2月の短国市場は、4月の追加利上げの織り込みが進む中で、付利金利0.75%超えでの投資家需要を探る展開で始まった。6日の3M1360回債入札は最高落札利回り0.7574%となり、付利金利超えでの需要が確認されたが、13日の3M1362回債入札では0.7635%、20日の3M1364回債入札では0.7781%となり徐々に金利上昇した。9日の6M1361回債入札も0.8627%は前月比約9.0bp上昇し、19日の1Y1363回債入札は1.0482%と史上初の1%台の入札結果になるなど、全てのゾーンで4月の追加利上げを織り込む動きから金利上昇が進んだ。27日の3M1365回債入札でも0.7836%となり、3Mの過去最高金利を更新するなど月半ばから後半にかけては、入札毎に金利上昇圧力に押されて今月を終えた。

<一般債市場>

2月の定例地方債は、前月比横ばいの10年債が国債カーブ対比+12bpとなり、5年債が国債カーブ対比+9bpの条件決定となった。2月の定例地方債10年債は2,075億円、5年債は820億円の発行となった。今年度2番目に少ない発行額となっている。表面利率は、国債金利上昇に伴って2.3%超えと過去約20年間で最高水準となった。10年定例政保債は前月比横ばいの国債カーブ対比+10bpの条件決定となり、政保債・地方債スプレッドは2bpが継続した。2月の事業会社債の発行額は、三菱地所三本立て債の計1,290億円や野村ホールディングス三本立てAT1債計1,500億円の大規模起債などが寄与し払込日ベースで計7,760億円(32銘柄)となった。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#381	2.270(2日)	2.055(24日)	2.290(9日)	2.110(27日)
#380	2.275(2日)	2.060(24日)	2.295(9日)	2.110(27日)
#370	1.995(3日)	1.840(25日)	2.055(9日)	1.860(27日)
#183(5Y)	1.680(2日)	1.565(24日)	1.735(9日)	1.575(27日)
#195(20Y)	3.200(2日)	2.865(24日)	3.200(2日)	2.925(27日)
#1354-#1361 TDB(6M)	0.790(3日)	0.790(3日)	0.880(13日)	0.875(16日)
#1359-#1365 TDB(3M)	0.755(6日)	0.700(19日)	0.775(27日)	0.760(27日)